

平成二十五年度入学式式辞

今年は大変寒さの厳しい冬でしたが、先週から桜が満開となるとともに国際園芸アカデミーのキャンパスには次から次へと様々な花が咲きみだれ、まるで桃源郷のような風景がみられる季節を迎えています。

ここに、本校に入学されました二十二名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、可児市長様ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、国際園芸アカデミーは平成十六年に可児のこの地に県立の園芸に関する専修学校として開校し今年で十年目を迎えます。この間に、上級マイスター科とマイスター科の二学科を併せ、百九十名もの卒業生を業界に送り込んで参りました。残念ながら、上級マイスター科は昨年度をもって廃止されましたが、本年度からはマイスター科一科として、カリキュラムも再編し、本校は新しく生まれ変わろうとしています。この節目にあたり、あらためて開学以来の本校の教育理念と使命を申し上げます。そこには、「花と緑の産業と文化の発展に寄与し、健康で心豊かな生活を創造できる専門的・総合的な知識と技術を修得した人材の育成」とあります。二年前の震災をきっかけに、今、世界が大きな転換点にさしかかろうとしています。経済発展を目指した拡大志向から、社会の持続可能性へと舵を転換しなければいけない時代に入ってきました。このような社会では、今後、健康や環境が大きな課題となり、本校が目指しているような理念をもつ教育機関の役割が益々、重要になってくると思われまます。本校での学びの特徴は、その目標達成のため、分化した狭い専門分野だけでなく、植物を育てる生産分野、植物を飾る装飾分野、植物を植える造園緑化分野の3分野を広く学んだうえでそれぞれの分野を深く極めることにあります。

このような学びを通し、時代が求める豊かな感性と柔軟な発想をもつ、専門の枠だけにとどまらない応用力のある人材の育成を目指してきました。

皆さんは、明治から大正時代にかけて太平洋の架け橋として活躍された、農

学者、教育者であった新渡戸稲造という人物をご存じでしょうか。かつては五千円札の肖像にもなった人です。彼は、有名な札幌農学校で農学を学び、アメリカに留学、帰国後、札幌農学校や京都大学で教鞭をとっていました。また、台湾総督府に勤務し、台湾の砂糖産業発展に貢献し、国際連盟の事務次長も務めていました。この新渡戸稲造が自らの教訓とした有名な言葉があります。

これからの学びや人生についての指針ともなる言葉です。この言葉を皆さんに贈りたいと思います。

その言葉は、

「Be just, and fear not.」(正しくあれ、そして恐れるなかれ)

シェークスピアの戯曲「ヘンリー八世」のなかに出てくる言葉です。正しいことをしているなら、何ら恐れることはないという意味です。失敗を恐れず、正面から向かい、逃げるなどということでもありません。本校への入学を機に、素直な気持ちで、恐れることなく、いろんなことにチャレンジしてほしいと思います。

この言葉を胸に、花と緑のエキスパートになれるように勉学に励んで下さい。その学びを私たち教職員が一丸となりサポートして行きますので、学生の皆さんは悔いのない学生生活を過ごしてください。また、保護者の皆様には安心して私たちにお任せください。今日、ご臨席いただきましたご来賓の皆様におかれましてもこれまでにもましてご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、新入生の皆さんには、何よりも自らの健康を大切にし、体と心を鍛え、学業に励んでいただきたいと思えます。そして、新たな友人と出会い、語り、有意義な学生生活を全うされることを願っています。

この入学に際し、それぞれの志を新たにし、初心とその意気込みを忘れることなく、有終の美を飾ってくれることを祈念し、私の式辞とさせていただきます。

平成二十五年四月吉日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘